

取組の柱③：多層的な連結性

事例③⑧：コールドチェーン物流分野の国際標準化

1. 基本的な考え方

- ASEAN地域においては、温度管理を伴うコールドチェーン物流サービスへの需要が高まっているものの、コールドチェーン物流網が十分に構築されておらず、安価ではあるが温度管理の不十分な物流サービスが散見されるため、健康被害や輸送途中での食料廃棄が問題となっている。
- 日本式コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）を普及させることで適切なサービス品質が選ばれる健全な市場を構築することで、健康被害や食品ロスの削減に貢献する。
- さらに、JSA-S1004をベースとした、より認知度の高いISO規格の策定を通じ、品質が第一に考慮される健全な市場環境の形成が必要。

2. 具体的な取組

- JSA-S1004の普及に向け、関係省庁、関係団体、物流事業者と連携して相手国への働きかけ等を実施。

（例）二国間の物流政策対話やワークショップの実施

パイロット輸送事業の実施

ASEAN重点5か国（マレーシア・インドネシア・タイ・フィリピン・ベトナム）に対する個別アクションプランの策定、JSA-S1004をベースとした国際規格化（ISO/TC315）

日本型コールドチェーン物流サービスの規格化



規格の各国への普及



健全な市場の構築

小口保冷配送サービス (BtoC)



ISO23412 ※2020年5月発行

【国際規格の普及啓発】※経済産業省と連携

- ASEAN各国における国家規格化及び普及に向けた取組を働きかけ
→タイで2021年6月に国家規格化。他ASEAN諸国にも引き続き働きかけ

コールドチェーン物流サービス (BtoB)



JSA-S1004 ※2020年6月発行

【国際規格化 + 日本規格の普及促進】

- JSA-S1004を基にした国際規格発行に向け、ISOでの議論を主導○ASEAN重点5か国（マレーシア、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム）でのJSA-S1004の普及に向けたアクションプランを順次策定